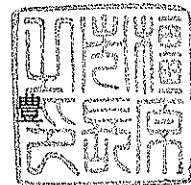




檀道河第 3282 号
平成 19年 5月 30日

国土交通省道路局長 殿

檀原市長 安曾田



中期的な計画の作成にあたっての意見書

地方にとっては、道路整備は都市基盤整備の根幹であります。特に、現在建設が進められている京奈和自動車道には予算（費用）を集中的に投下して、早期に全線開通する事が災害時の復旧活動や救急医療の支援に大きな効果を上げる事ができますので、京奈和自動車道へのアクセス道路の整備が重要な政策であります。

京奈和道や南阪奈道路など、檀原市はこの数年で道路整備が進んだことで、市内の幹線道路は急ピッチで整備され、スーパーの進出などもあり、道路による地域活性化を肌で感じているからこそ重要性を訴えたい。道路は一部だけ開通しても意味がなく、檀原から奈良市、吉野方面など地域と地域が結ばれて始めて大きな効果が生まれるのです。

道路は、建設後は維持管理が必要でありますので、道路特定財源は道路建設のみならず維持管理を考えれば今後も存続させるべきであると思っています。

道路特定財源を別の分野に回していいのでしょうか。無駄な道路建設はすみやかにやめるべきですが、一般財源化されると、必要な道路まで造られなくなる懸念があります。県内の状況をも、道路特定財源の役割は終わっていないと言えます。